

兵庫教組、兵庫県高等学校教職員組合と教職員未配置の調査結果を記者発表！

新規採用の大幅増・長時間過密労働の解消が急務

「教員不足、学校現場疲弊、長時間労働が慢性化」(神戸新聞)「これまでの対策限界」(朝日新聞)

兵庫教組は兵庫高教組と6月13日に、教職員未配置の調査結果を記者発表しました。記者発表には、読売新聞・朝日新聞・毎日新聞・神戸新聞・しんぶん赤旗・時事通信・NHKの7社が参加。NHKは20:45からの兵庫ニュース845で報道。朝日新聞や神戸新聞、しんぶん赤旗も翌日の朝刊で内容を報じました。

その中で、朝日新聞は「教職員の無理によって成り立つ今の状況が常態化すれば、現場はますます弱り、さらなる教員不足を生んでしまう。まずは採用数をふやしてほしい」とした組合の主張を丁寧にとりあげました。

兵庫県も神戸市のように(神戸市は前年度の1.8倍を採用)、採用数を50人増やせば、少なくとも年度初めからの定員未充足などということは解消できるはずです。署名を中心としたとりくみになりますが、是非ご協力ください。記者発表した調査結果の概要は以下の通りです。

1 小中学校の状況

①調査の方法

各市町教育委員会へ直接、調査依頼を送付

②回収結果

40市町教委のうち38市町教委から回答

③未配置の実態

	小学校	中学校 (特支学校を含む)	合計
常勤	54人	46人	100人
非常勤	28人	40人	68人
合計	82人	86人	168人

④常勤未配置の理由

	産育休 代替	病気休暇 代替	介護休暇 代替	定員 未充足	その他	合計
小	14人	18人	0人	22人	0人	54人
中	6人	10人	1人	24人	5人	46人
合計	20人	28人	1人	46人	5人	100人

⑤非常勤未配置の職種

	兵庫型 システム	主幹 マネ	初任研	特別支援 教育加配	その他	合計
小	15人	2人	5人	5人	1人	28人
中	9人	11人	12人	1人	7人	40人
合計	24人	13人	17人	6人	8人	68人

⑥未配置の自治体数

未配置の数	0人	1~3人	4人~9人	10人~
自治体の数	8市町	18市町	8市町	4市町

2 高等学校特別支援学校の状況

①調査の方法

各支部へ調査依頼、メール・FAX等で回答依頼

②回収結果

186校のうち110校から回答

③未配置の実態

25校で33名の未配置がある

※生活学習支援員、介助員、調理員、寄宿舎指導員を含む

3 教職員未配置の原因について

- ・そもそも学校の中に、臨時教職員が多い実態がある。
 - ①若い教員が増え、産育休取得者が増えていること。
 - ②本調査でも明らかになったが、病気休職者が多いこと。働き方と密接な関係。それだけ学校現場が大変になっている。
 - ③義務標準法により、児童生徒数の変化で学級数が決まるために、学級定員がギリギリの時は翌年度のことを考え正規を入れず、定員内臨時教職員で対応している。
 - ④国の目的加配を、非常勤に分配し配置している。多くの学校に配置できるが、臨時教職員が増える。
- ・学校の長時間過密労働の実態等により、学校現場が魅力ある職場になっていない。若い人が敬遠。年配の経験者も「常勤」は希望しない傾向。
 - ①採用後、理想とかけ離れた勤務実態を理由にすぐに退職をする
 - ②学級担任が病気休職でその代替が未配置のために入った教員も病気休職。やっと配置できた臨時教職員も続かず退職するといった例はまれではない。
 - ③教員採用試験倍率の変化(兵庫も5倍を切った。)教員志望者の減少傾向

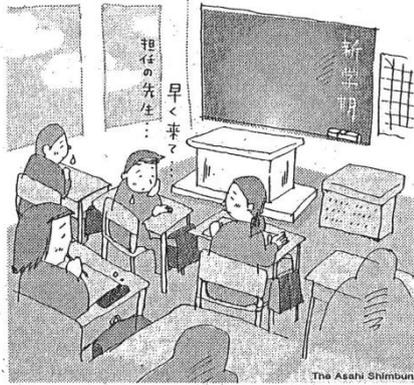


記者発表する、左から未配置を考える県民の会中村会長、中央、兵庫教組永峰書記長、右、高教組赤松書記長

(裏面に続く)

4 未配置のためにおこる問題

- ・何より、その学校で学ぶ子どもたちの学習にとって大きな弊害になっている。本来いるべき先生がいないのだから、その弊害は一つの学級にとどまらず、それをカバーするために多くの学年の子どもたちの学習に影響している。
- ・その学校で働く教職員がみんなでもカバーすることで、何とか未配置の状態をしのいでいるので、その分がすべて過重労働になっている。ますます、病気休職者や退職者が増える。臨時教職員もなり手が無い。配置できてもすぐに辞める。また、未配置になる。
- ・これらを含む、教職員の働き方のブラックな実態が、若い人たちにとっての教員志望離れにつながっている。



5 今後の組合としてのとりくみ等

- ①とりくみの基本
 - ・この問題を教職員だけのものとせず、多くの保護者・県民のみなさんと共有したい。
 - ・兵庫県における教職員未配置解消を求める要請署名にとりくむ
 - ・市町教育委員会、県教育委員会にはこの調査結果を重く受け止め、未配置の解消につながるあらゆる方策を検討することを要望。同時に市町教育委員会、県教育委員会の対応では限界があることも事実。全国的な問題であることから文科省への働きかけ（教育予算増・定数改善・給特法の改正等）も引き続き要望していきたい。
- ②県教委に求めること
 - ・未配置の実態を県教委の責任で実態に即した調査、把握をすること
 - ・新規採用教職員を大幅に増やすこと
 - ・教職員の多忙化解消のためにあらゆる施策を講じること
 - ・少人数学級を国の施策を前倒しする形で進め、学級担任等の事務量を基本的に減らすこと
 - ・教諭が本来の業務でない仕事を分担していることの解消（給食会計業務・就学援助会計業務等）
 - ・臨時教職員がより働きやすい職場になるように、同一労働同一賃金の趣旨から、正規教職員と賃金権利が同等になるようにさらに処遇改善にとりくむこと
 - ・妊娠教員の負担軽減のための措置のうち、4月中に産休に入る小学校学級担任に始業日から補助教員を配置する制度（先読み加配）の対象教員と期間の拡大を行うこと

6 教育フォーラムの開催について

この問題を教職員組合だけの問題にせず、保護者・

県民と幅広く共有し、問題解決のために知恵を出し合うために、当面、次のとりくみをすすめます。

7月15日(土)教育フォーラム

「いま、学校に先生がいない

～教職員未配置の深刻な実態～」

□日時 7月15日(土)13:30～16:00

□場所 兵庫県学校厚生会館 2階大会議室

□内容 基調報告 教職員未配置の全国のようす

波岡 知朗(全教教文局長・副委員長)

兵庫県の実態報告

各立場からのご意見

行動提起

教職員未配置の実態に対する「現場のあなたの声」をお聞かせください。

兵庫教組は市町教育委員会に対して、未配置の実態を調査依頼し、その集計結果として記者発表を行いました。数字だけではなく、未配置が1人あることでどんなに現場が大変か、その声を集めようと、グーグルフォームを使ったアンケートを現在行っています。下記のQRコードから、ぜひあなたの声をお聞かせください。



現場からの声～教職員未配置の深刻な実態～

アンケートから、行政に求めることの抜粋

校種	行政に求めること
中	少人数学級と教職員の増員を大至急すすめて欲しい。
小	正規職員の雇用の増加。 給食のように、学校諸費、就学援助手続きを行政に完全移行すること。 スクールポリスやスクールロイヤー制度の導入
小	正規教員を増やさない限り現場の困難さは解決されない。現場が困難な状態にあるので希望する代替教員が見つからない。
中	教員を増やすしかない。
中	定数改善、正規採用、仕事を減らす、給料を上げる、時間外勤務にもお金を払う
小	このままの状態を続けていることそのものがおかしい。教育委員会も「学校で何とかしてくれる」と思っているのに違いない。また一人病気休暇が増えるだけという危機感をもっと持ってほしい。忘れがちだが、何よりかわいそうなのは子どもたちだ。
小	とにかく、4月当初に定員が配置できないのはおかしい。正規採用を増やして、定員未充足は解消してほしい。

未配置解消のために、教職員の多忙化解消、待遇改善をさらに進めよう!!